<table>
<tr><td colspan="5">新潟市教育委員会　令和6年9月　定例会会議録</td></tr>
<tr><td>日　時</td><td colspan="4">令和6年9月 30 日(月)　午後 3 時 30 分</td></tr>
<tr><td>場　所</td><td colspan="4">新潟市役所　ふるまち庁舎　4階　教育会議室1</td></tr>
<tr><td>教育長</td><td>夏　目　　久　義</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="5">出席委員
(8 名)</td><td>齋　藤　　昭　彦</td><td rowspan="3">出席委員</td><td colspan="2">神　林　　むつみ</td></tr>
<tr><td>乙　川　　千　香</td><td colspan="2">小　見　　直　樹</td></tr>
<tr><td>中津川　　英　子</td><td colspan="2">渡　部　　雄一郎</td></tr>
<tr><td>畠　山　　典　子</td><td rowspan="2">欠席委員</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>石　坂　　学</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="12">会議出席
教育委員会
事務局職員
(6 名)</td><td colspan="2">職･氏　名</td><td colspan="2">職･氏　名</td></tr>
<tr><td>教　育　次　長</td><td>丸 山　　明 生</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>教　育　次　長</td><td>山 本　　正 雄</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>教育総務課長</td><td>渡 辺　　和 則</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>学校人事課長</td><td>山　本　郁　雄</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>学校支援課長</td><td>三 條　　貴 之</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>教育総務課補佐</td><td>相 崎　　敦 子</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>他部署
出席者(0 名)</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

開会	時　刻	午後 3 時 30 分
	宣 言 者	教育長
付議事件 （0 件）		
報告 （4 件）	令和 6 年度全国学力・学習状況調査の結果について	
	令和 7 年度新潟市立学校教員採用選考検査結果について	
	令和 6 年度新潟市教育委員会表彰被表彰者の選考結果報告について	
	和解及び損害賠償額の決定に係る専決処分について	

第1　開会宣言

○教育長　　午後 3 時 30 分　開会を宣言する。

これより、令和6年9月新潟市教育委員会定例会を開催いたします。

本日は報道関係者より委員会を撮影及び録音したい旨の申し出がありますが、これを許可することにご異議ありませんでしょうか。

（異議なし）

それでは、許可することといたします。

会議録署名委員の指名

○教育長　　日程第1「会議録署名委員の指名」を行います。新潟市教育委員会会議規則第 11 条により、会議録署名委員に齋藤委員及び乙川委員を指名します。

第2　報告

○教育長　　次に、日程第2、報告に入ります。はじめに、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、学校支援課から説明をお願いします。

○学校支援課長　　学校支援課です。お配りしております「令和6年度全国学力・学習状況調査概要と結果を受けての取組」と、資料とを組み合わせながらご説明させていただきたいと思います。まず資料1をご覧ください。この調査は4月18日に実施され、8月の定例会でもお示ししました。

小学校国語については、全国平均を若干上回りました。その一方で小学校算数、中学校数学は全国平均を下回る結果となっております。また、資料2にありますように、各教科の平均正答率の状況は全国と同様の傾向ではありましたが、一方で各教科とも全国平均正答率を下回ったり、無答率が高かったりする問題が複数ありました。

これらの結果を分析した指導改善の方向については、学校支援課より各学校にお知らせします。その際には、学校支援課だよりの発行だけでなく、昨年度発出した授業づくりの手引き、授業づくりサポートと言いますが、これを改定し、教職員に分かりやすく伝える工夫をいたします。さらに各校においても、それぞれの学校の結果分析を基に指導改善を図るよう働きかけております。

次に資料3、児童・生徒質問紙についてです。表の見方についてご説明します。数値欄の左が小学校6年生、右が中学校3年生の回答状況です。黄色の部分が今年度の新潟市の肯定的回答の割合で、数字を赤字で示したものが全国を下回った結果となっています。

また、矢印がついている項目は、令和5年度の新潟市の肯定的評価と比較して、3ポイント以上下がった項目です。なお、数値が空欄の項目は選択肢に肯定的なものと否定的なものとの区別が明確ではないなど、数字で表すことが評価にそぐわない内容ですので、それらの内容は同じく資料3のグラフでその事項と回答状況をお示ししました。

では、児童・生徒質問紙の結果概要です。質問紙調査は日常生活や学校生活に関する内容と、今年度実施されました教科に関わる内容で行われています。今年度は、ICT を活用した学習状況や、主体的対話的で深い学びの視点から授業改善に関する項目が加わりました。

2の(2)、先ほどお示ししました、概要と結果を受けての取組のところでございますが、政策指標に関わる回答状況を一覧でお示ししました。令和5年度と比較すると、特に中学校で数値の伸びが多く見られます。各校の取組の成果が現れています。一部質問が変更されていたり、すべての学年の児童生徒を対象に行っている新潟市生活学習意識調査で評価したりしているものについて、参考値、参考数値などもありますが、教育委員会としての取組が一定の成果をあげていると言えます。

全体的な回答状況については、2の(3)でお示ししました小学校、中学校ともに全国平均を上回った項目は、小学校で57項目、中学校で61項目ありました。その中でもICTを活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」に関する取組状況で全国平均を大きく上回りました。特に、「ICT 機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」では、小学校で10ポイント、中学校で13ポイント上回りました。学校支援課では、これまで学校訪問で参観した授業を基に、児童生徒が自分の思いや考えを表現しながら、本気で追求する授業づくりについて指導をしてきました。

また、各校の教育ビジョンに基づいた、一貫性のある教育活動が推進されるように指導助言も行ってきました。その結果、各校の目指す教育の実現に向け、児童生徒の気持ちに寄り添いながら授業づくりに努めようとする教職員の姿が見られています。

授業を基に指導してきたところでございますが、特に児童生徒の学びを豊かにする ICT 端末の活用について取り組んできました。その結果、昨年度に引き続き全国平均を上回る結果につながったと捉えています。

今回の結果を受けて、学校支援課では授業改善につながる学校訪問において、今後も児童生徒の主体的な学びを具現する指導のあり方について、参観した授業を基に具体的に提案していきます。

反面、今回の調査では小学校、中学校ともに「将来の夢や目標を持っていますか」の回答が、数値は上がりましたが、全国平均を下回る結果となっています。今後も総合的な学習やキャリア教育の取り組み方についても指導していく必要があると考えています。

今年度も、政策指標や教科指導に関わる成果や課題に対し、全国学力学習状況調査の一部の項目について、相関関係を外部機関と連携して分析していきたいと思います。現段階では、主体的対話的で深い学びの視点から、授業改善に関する取組状況や総合的な学習の時間、学級活動、特別な教科道徳の取組状況、家庭学習に対する学校の指導のあり方などとの関連や新たに設けられた質問項目について分析する予定です。

また、前年度と比較した正答率との相関だけでなく、各校の正答率の伸びにも注目したいと思っています。伸びている学校の取組を分析していく予定です。さらに、他自治体への視察・調査等も行い、参考となる取組を収集し、皆様にお伝えしたいと思っています。

以上の分析および収集の終了については、令和6年末を目途とし、令和7年

度の取組について、今後の定例会でご報告していきたいと思っています。よろしくお願いします。以上です。

○教育長　ただいまの説明にご意見・ご質問がありましたらお願いします。

○畠山委員　今説明してくださった、報告1の2の2つ目の丸です。新設された項目を見ますと、この4つの項目すべて、新潟市は小学校も中学校もプラスになっているというのは、今大事な設問、内容、取組だということで新設されたと思うのですけれども、それがすべてプラスになっているというのは、やはり先ほど説明があったように、取組を一生懸命された成果だなと思って、数値やグラフを見させていただきました。

そしてその中で、報告2の(3)です。全体的な回答状況のところで、1番目のところですが、小学校は3ポイント以上上回った項目が8項目、中学校は上回った項目が24項目と大変多くあります。

中学校が上回ったということで、小学校の数値により近くなっているなと思ったのですけれども、中学校でこれだけ上昇したというそこのところの何か手立てというのはあったのでしょうか。

○学校支援課長　直接的にこの手を打ったから上がりましたとまだ言えないのです。先ほど言いましたように、生徒質問紙の中から見えてくる学校生活の状況や、それから学力との相関も含めて見ないといけないなと思っていますが、1つは生徒指導的な対応で案件を見ますと小学校に少しいろいろな傾向とかそういった問題が起きているなと考えています。これも実は相関になるのか分からないのですけれども、中学校は非常に落ち着いた授業を行っていただいています。

一時のなかなかこう難しい指導に追われているような時代と違いまして、学校訪問に行きましても、その報告を受けましても、中学校は大変落ち着いて授業に取り組んでいるということを聞いておりますので、おそらくそういったところが功を奏しているのではないかなとは思います。

○畠山委員　はい、ありがとうございます。やはり学級経営というのでしょうか。子どもたちが落ち着いて安心して授業を受けられるというのは、授業に集中できるということですので、今のお話を聞いて、そういうことも1つの要因なんだなということで聞かせていただきました。

また、状況調査の15番で「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」というところが、この全部の質問紙の中で最も高い1つということで、これはとても大事なところだと思って見ています。ここはやはり人間として1番大事な1つでありますので、こういうところが高いというのは、全国も県も高いですけれども、新潟市も高いということで、とてもいい傾向にあるなと思って見させていただきました。

先ほどお話がありましたように、各学校の具体的な良い取組が、具体的に各学校に伝わると響くと思いますので、そういう事例の紹介をして、また全体のレベルアップを図っていただきたいなと思いました。以上です。

○教育長　他にご意見ご質問はありますか。

○中津川委員　お願いいたします。これからまた今年も細かい検証等、外部機関と連携して

実施されるかと思うのです。数学がやはり小6、中3ともに全国平均より下がっていると、ちょっと心配な実態かと思います。

今の時点で分かっていらっしゃる要因、今後の対応策、何かありましたらお聞かせいただきたいと思います。

○学校支援課長　これから分析を細かくしていきますけれども、問題から子どもたちの誤答や無答を見る中で、まず基礎的な問題であっても、なかなかそれが習得までいってないなっていうところが見られます。もう1つはこれもまだはっきりと言えないのですけれども、読解力の問題というのでしょうか、問題文に少し仕掛けがあると言えばいいのでしょうか、問われ方によって誤答が増えているということがございます。確かにすっと読んでしまうと、勘違いしてしまうような場合もございまして、そういったものも原因なのかなと思っています。この2点、まだこれからの分析ですが、私の中で感じている内容でした。

それから昨年度もそうでしたが、大学の方にお願いをして相関をとりたいと思っています。昨年度は、相関がないというのも1つの結果でございましたので、それも含めて本当に大きく影響したものはそれでいいのですけれども、我々が想定したものの中で、もしかすると相関がないというのも出てくるのではないかとも思いますけれども、それも含めて調査検討していきたいと思っています。

○中津川委員　ありがとうございます。読解力についてはやはり、国語ともに連動する部分もあるかと思います。それからもう1点、今年度から生活状況調査はオンラインでの回答と聞いております。それに対して何か混乱ですとか、児童生徒の様子などいかがでしょうか。入ってきている部分がありますでしょうか。

○学校支援課長　特に終わってからのトラブルや学校からの意見等はなかったと思いますが、実は何度か練習をしておりました。そこではトラブルであったり、回線の問題があったりしましたので、とりあえずそこである程度は解決をした後に取り組んだものと思っています。

○中津川委員　ありがとうございます。新潟市は ICT 教育の先進地と言われておりますし、児童生徒の皆さんもやはりそういったタブレット端末を使って回答するということにも慣れてきているのかなと思って安心いたしました。

来年からは理科もそういったオンラインでというような話も出ているそうですので、引き続きいろいろ、そういう事前の練習といっては何ですが、その辺の対応もお願いしたいと思います。

あと、もう1点、生活調査の9番と10番、「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」、中学生の皆さんが大変伸びているということで、これは素晴らしいなと見ておりました。確か、今年度の取組、その辺多様な視点から中学生の子どもたち、いろんな先生が褒めてあげることが大事だと、重点に置かれるというようなお話でしたので、その辺の成果が上がってきているのかなと思って見ておりました。

そして、特別支援教育の観点からも見るというようなお話もありましたが、何か具体的な好事例とか上がってきていることはございますか。

○学校支援課長　授業づくりサポートという中に特別支援教育の視点を入れながら、先生方に

周知しているところですけれども、ここが決め手になっているとなかなか言いにくいのですけれども、先生方の子どもたちに対する見方が変わってきたのではないかなと思っています。困っている子を困った子ではなくて困っている子にどう寄り添っていくかというあたりは、授業中においても丁寧に対応していただいているかなと思いますが、ちょっと今具体的にこれが効きましたと言えないのが申し訳ないのですけれども、そういう視点をもって授業に挑んでいただいているというのが大きな効果だと思っています。

○中津川委員　子どもたち、先生に褒められるということは本当に大きな喜びであり、今後の人生においても大きなところかと思いますので、引き続きその辺のきめ細やかな対応をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

○教育長　他はいかがでしょうか。

○神林委員　先ほど、「算数で読解力が足りなくて」とおっしゃったのですけれども、この小学校の算数の4の（1）のところで、「540 ÷ 0.6 を計算する」という、単純な計算が64％というのがちょっと気になったのですけれど。それは読解力とはちょっと関係ないのではと。そこはどのように理解されておりますか。

○学校支援課長　最初にお話しさせていただいた基礎基本のところと、やはり問題が文章題になっている時の捉え、そこが読解力にかかるのかなというところです。

○神林委員　この「540 ÷ 0.6 を計算する」というのは、単純な計算式のそれができないっていうのはどういうことなのか、読解力とは関係ないような気がするのですけれども。

○学校支援課長　単純にそれができなかったということになります。小学校において、やはり小数であるとか割り算に引っかかると、なかなか難しいことがあります。この問題について言うと、小6ですべて賄えるかというとそうではなくて、それまでに割り算から始まって、少数とかですね、いろいろなものが関連しますので、この学年、6年ということではなく、その前段階の学年からちゃんと指導する必要があるというようにも、基礎的な問題としては必要だと思います。

○教育長　他はいかがでしょうか。

○石坂委員　お願いします。取組に向けての1番の2つ目の丸です。無答が高かったりする問題が複数あったということで、ここをちょっと心配しているのですけれども、今度は資料2－1、それぞれの細かな問題の無答率のところを見てみると、小学校の問題が全部で14問あって、国語で全国よりも無答者が多かった割合、問題を数えてみると6つあるんですね。

同じように数えてみると、算数では16個あるうちの14個無答が多い。中学校では国語が15個あるうちの6個。数学が16個あるうちの10個無答が多い。答えない子が多い。答えられないのか答えないのか、わからないのですけれども、この無答というところにすごく引っかかっていて、新潟市の子どもたちは割と前向きにアンケートも答えてくれるし、取り組もうとしているように私には思えているのですけれども、この無答が多い原因・理由、それからこれが各校に均一にあるのか、それとも各校によってかなりばらつきがあって、無答が多い学校があるのか、そのあたりもしご存知でしたら差し支えない範囲でお話を聞か

せていただきたいと思います。この無答が多いというのは、やはりちょっと引っかかっているところであります。

○学校支援課長　現段階ではちょっと資料とそれから今調べていることはないので、今後ご指摘あったようなところで調べたり、または傾向をつかんだりしていきたいと思っています。

○石坂委員　ぜひこの部分慎重にまたご検討いただければと思います。

もう1ついいでしょうか。質問紙を見てみると、例えば質問紙の10番「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」、14番「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」、それから20番「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」、こういう私たちが大事にしていただきたいなと思う項目のアンケートの点数が高いんですよね。そして「ます」とか「そうです」と言って答えてくれる子どもたちの割合がすごく高い。これはすごいことだと思うのです。

さらに報告9を見ていくと、真ん中あたりにある ICT についても、非常に前向きに学習に活用していると答えてくれていますし、36番でしょうか、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」、これについても非常に高いのです。そして、周りの友達とも協働して勉強しているという項目も、以下の項目をずっと見ていくと非常に高い、全国よりも高い数字が出ています。

このように、文科省が進めようとしている、主体的で対話的な深い学びに向けた実践、それから ICT を取り入れた令和型の学びについても、非常に新潟市の先生方は一生懸命やっているようにこのアンケート質問用紙からは見えてくるし、子どもたちもそれに応えようとして一生懸命やっている、ここはすごく誇っていいことなのですけれども、これがなぜ、学力テストの問題の正答率に出てこないのか。つまり、先生方も新潟市教育委員会、それから文科省が指導してくれているような方向で一生懸命やっていると、子どもたちも協働的な学び、主体的な学びに取り組んでいるにもかかわらず、なぜ学力のその数字が上がっていかないのか。なぜそんなに乖離があるのか。ここを私たちがよく見ていかないといけないなと思っています。そうでないと学校は、もう何をしていいかわからないのではないかと思うのです。言われるように授業改善に基づいて一生懸命やっています。子どもたちもこう答えています。でも、なかなか学力が伸びてきていません。今こういうことがこのアンケートから見える。こういう時にやはり教育委員会として、この方向でいきましょうとか、この方向をもっと強調していくことによって、もっと学校側で取り組んでいただくことによって、数字の方も確実に伸びるのですというような、何かしらの方向性を、教育委員会がある程度主導で各学校の方に話をしていってもいいし、学校の方にそれを自分たちで考えてくださいと投げても学校も困るのではないか。こんな風に私は今考えているところです。ぜひ大学の方と連携して分析をされるということですので、その分析結果も出てくるでしょう。でも、学校が今取り組んでいることは確実に取り

組んでいるし、子どもたちも頑張っている。でもなかなか点数に出てこない。この部分についてのやはり具体的な指導を、教育委員会の方でも考えていただいて各現場に落としていただけるとありがたいなと感じているところです。

もし今お考えがあればお聞かせいただければと思います。これからの分析を待つようであれば、またその時点でお願いしたいと思います。

○学校支援課長　今、考えていることということでありますけれども、学力から見れば、確かに点数的に上がっていないことや、今までの学校や子どもたちの予想から見ると少し伸びも頭打ちになってきていると思います。ただ、学力をもって今これを判断していいのかということも考えています。もちろん指標ですので、それは手がかりに、上がった、上がらなかったということもあると思うのですけれども、これは各校によってだいぶ違いがありまして、学校ごとに見ていっても、うまく順調に取組が進められているところと、そうでないところもある。私たちからすると学力は1つの指標であり、それをまた上げることだけを目的にするのではなくて、これは指導の手がかりにする。ですから先ほど言ったように、6年生ではなくて全校をあげて学校の中で何か課題を見つけて、そこが学校の弱点だと思って取り組むべきであると思います。

もう1つが先ほどから言っている、令和型、日本型の授業ということで、個別最適な学びや協働的な学びについては、実は国の方も、これがそうですという言い方をまだしていなくてですね、我々もまだ、これが個別最適な学びである、協働的な学びであるというところまでたどり着いていません。

そこで、支援課内にワーキンググループを作って、学校に出向いて授業を見させていただいて、個別最適な学びの中で、子どもの本当の学びにつながっているものや、望ましい協働的な学びのあり方を蓄積しています。

それが教材になると言うとちょっと大げさですけれども、サポート資料になって、皆さんにこれが今求められている授業であり、学力を上げるためとは言いませんが、子どもにしっかりと確かな学力を定着させるための1つですよというのはお伝えしていきたいなと思っています。

○石坂委員　ありがとうございます。やはり学力の定着の部分がもしかしたら弱いのかもしれないとか、今そういうニュアンスにも聞こえたのですけれども、その辺り十分にまた分析をされて、学校の実態は確かに違うのかもしれないですけれども、各校にお任せをするのではなくて、各校にこういう方法がありますと、具体的な指導をしていただけると、きっと学校の方も助かったなと感じると思いますので、ぜひその部分期待したいと思います。大変でしょうけれども、ぜひお願いします。

○教育長　他はいかがでしょうか。

○畠山委員　資料3のところですが、質問（5）のところの、テレビゲームとか携帯式のゲームをどのくらいしますか、というところの質問ですけれども、これが1時間以下というのは、小学生が約2割、中学生が約3割ということ。それから次の（6）の方の視聴の方ですね、1時間未満が小学生では約半分、中学生では約2割ということで、やはり先ほど定着という話がありましたけれども、家庭学習というのは

とても大事なところだと思うのですが、この家庭学習のところで、テレビを見たり、ゲームをしたりというような時間に取られて、家庭学習の充実がもう少し図られるといいなと思います。

質問の20、21で、どれくらい勉強していますか、ということで、小学校6年生で30分以下が約4割、中学生もやはり同じぐらいの割合なので、全国平均と比べると新潟県と新潟市は同じような傾向があるんですけれども、全国平均に比べて少なく、例えば2時間3時間とか勉強するというような、時間の長さがすべてではないのですけれども、やはりゲームに時間を取られて、家庭学習する時間というのがもう少し充実すると、定着というのも図られるのではないかなと思います。

スマホの時間、扱い方ですね。使い方を話し合っていますかというところが、質問の7ですね、約束したことを守っていますか、ということなのですけれども、ここのところも、守っているというのは小学校も中学校も7割守っているということなのですけれども、どういう約束をしているのかなということで、約束をしている割合が高い割には、ゲームの時間とか視聴の時間が長いということが、この辺ちょっとまた不思議だなと思うところがありますので、また分析等で分かるところがあったら、後で教えていただきたいと思います。

○教育長　他はいかがでしょうか。よろしければ次に進みたいと思います。続いて、令和7年度新潟市立学校教員採用選考検査結果について、学校人事課から説明をお願いします。

○学校人事課長　お願いいたします。学校人事課です。令和7年度新潟市立学校教員採用選考検査結果につきまして、ご報告させていただきます。お手元に資料1ペーパーありますのでご覧ください。

教員採用選考検査の結果についてです。1番上の採用予定数は4月に配布した受検案内に記載した数字です。その後、退職希望者の調査など様々な状況を踏まえ、最終的に2次合格者の数を決定いたしました。

太枠で囲んだ2次検査合格者数をご覧ください。今年度は小学校教諭123人、中・高共通95人、特別支援学校教諭12人、養護教諭7人、栄養教諭5人の計242人を合格といたしました。過去15年の数値の中でも最も多い人数となっております。この2次検査合格者の242人に、大学院進学者名簿の登載者2名を加えた244人を、令和7年度新潟市立学校教員採用候補者名簿に登載をいたします。辞退者が出ることにより、追加合格を出す場合等があります。

したがいまして、最終的な採用数については後日確定する予定です。

なお、この検査結果につきましては、乙川委員、それから中津川委員から点検をしていただきました。大変ありがとうございました。

次に倍率についてです。小学校教諭1.6倍、中・高共通1.8倍、特別支援学校1.3倍、養護教諭7.4倍、それから栄養教諭2.4倍、全体で1.9倍となりました。受検者数が昨年度と比べて24人減り、さらに合格者数が大幅に増えたために、全体倍率は昨年度と比べ、0.5ポイント減の1.9倍になっています。

参考までに平成29年度採用以降の新潟市合格者数を掲載いたしました。以上、教員採用選考検査結果につきましてご報告させていただきました。

○教育長　ただいまの説明にご意見、ご質問ございましたらお願いします。

○齋藤委員　かなり採用者数が増えたというお話でしたが、今後加速する少子化によって、学校の数が減る、クラスが減る、また、退職される方もいらっしゃいますが、全体数として、例えば10年後20年後を見据えた教員数の想定をされた上で、長期的なビジョンをもってこの採用数を決められているのかどうか、もしご存知でしたら教えていただけますでしょうか。

○学校人事課長　これから先の数ですので、あくまで推測の部分でしかないのですけれども、子どもの数は減ってくるのですが、特別支援学級の数が増えてきていたり、それからまた若手が増えてきている分、男性が育休を取ったりするというようなことで、数的には正規と講師というところもあるかと思うのですが、そう大きくは数の減少はないという風に見ています。

徐々に減ってきますけれども、そうした見通しの中での採用数です。

○教育長　他はいかがでしょうか。

○石坂委員　選考日を早めたという取組をされましたけれども、それに対する手応えのようなものはいかがでしたでしょうか。

○学校人事課長　全国的にも話は出ているのですが、なかなか選考日を早めたからといって、結果がどうであったというところまで、どこの県もまだ分析がいっていないというところではあります。全国的に見ますと、受検者数が減ってきているところがありますので、早めたことがプラスになったかどうかというところははっきりとは分からないのですが、新潟市だけを見ますと、他県・他市に比べてそう大きく例年に比べて数が変わっていないというところがあります。

1つ我々が分析しているのは、新潟市の場合は、本当に新潟市を受けたくて受けている人たちが多いんだなというように思っておりますので、今後こういった受検者をしっかりと育てながら、新潟市の教員になっていってもらえるような策を練っていきたいと思っています。

○石坂委員　本当にありがたいことですよね。新潟市の教員になりたくて受けてくださる。そういう学生さんが多いというのは本当に大事なことだと思いますし、新潟市がやりがいのある都市だということで、取り組んでいかなければならないなと思っているところです。

もう1つお聞かせいただきたいのですけれども、3年生の受検も今年度やりましたよね。その手応えと、来年度に向けた何かしらプラスアルファの取組を、もしお考えでしたら、今お話しできる範囲でお聞かせいただければと思います。

○学校人事課長　3年生の受検については、まだ3年生自身も手探りの状況であるかなと見ています。ですので、今後来年も同じように3年生受検をした際に、もっと数が増えてくるのかどうかというところはまだちょっと分析ができていません。

今後のそうした取組については、今はまだ検討の段階ですので、お伝えすることはできないのですけれども、他県ですとか他市の動向等も見ながら、また今後考えていきたいと思います。

○石坂委員	4年生の受検とも同じだと思うのですけれど、やはり新潟市に魅力があって新潟市の先生になりたいっていうのは、4年生だろうが3年生だろうがあまり変わらないのではないかと思うのです。大学で教員免許を取って、どこかの都市の先生になろう、どこでもいいやというのではなくて、新潟市の教員になりたいんだってことで、教育学部や教員免許の取得に向かう学生が多いのではないかと思います。そういう学生のニーズをしっかり捕まえることと、そういう学生と新潟市がやり取りをする何かしらの接点を持つということが、これからはもっともっと大事にされるべきことだろうなと思いますので、ぜひ来年度の教員選考の仕組み、それから人材の確保を考えた時に、ぜひこの辺り十分にご検討いただいて、次年度の採用に臨んでいただければと思います。 採用選考の予定数100に対して小学校は123、中学校も75に対して95ということで、20名も多く取れたというのはすごいことだと思いますし、それでも倍率がしっかり残っているというのは大変すばらしいことだと思います。こういう風に新潟市を目指してくれる方を大事にしていきたいなと思っております。よろしくお願いします。
○教育長	他はいかがでしょうか。
○中津川委員	1点、今の補足的な質問なのですけれども、来年の予定スケジュールはまだこれからというところかと思うのですが、今年、6月選考ということで、教育実習との影響等はございませんでしたか。 来年度は一層前倒しで5月というような話も全国的に出ていますが、その辺の対応、今の時点でお答えできるようでしたらお願いします。
○学校人事課長	教育実習につきましては、大学によってそれぞれ行う月が違いますので、影響があったかなかったかということは一概にお答えできないのかもしれませんが、それで困ったというような声は直接には聞いておりません。 来年に向けてですが、今、国の方では、5月というような話も出ておりますので、また大学等々そのあたりは実習の日程も確認しながら、学生のことも考慮に入れつつ、また全国的な動きも見つつ、今後検討していきたいと思っています。
○中津川委員	はい、ありがとうございます。お願いします。
○教育長	他はいかがでしょうか。
○畠山委員	出願者を見ると、数学、理科、音楽というのは特に男性女性の数がずいぶん違いますよね。やはり女性は理数系が苦手とか、男性が得意とかいうような日頃の一般的な社会の中でもそうでしょうし、学校教育の中でもきっとそういうような、教育の中身はそうじゃないとは思うのですけれども、日頃の子ども同士とか職員の大人とのやり取りの中で、そういうような、やはり環境というか、そういうものがこういう数値に現れているなと思いますので、男女平等教育を行っているというところは本当に一生懸命やってくださっていると思うのですが、女性の理数系は社会に出ると男性の5分の1という数値、この出願者を見るとだいたいそのような数になっているのですけれども、やはりそういうことが社会全体の歪みというか、学校教育の中でも数学とか理科の先生は男性だというようなところ

も1つの環境にもなっていると思いますので、また教育の中でそういう男女平等教育をいろんな視野で進めていただきたいなと思います。

○教育長　　他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次へまいります。

次の、令和6年度新潟市教育委員会表彰被表彰者の選考結果報告については、公表前であることから、その次の、和解及び損害賠償額の決定に係る専決処分については、議会へ公表前であることから、非公開で行いたいと思いますがご異議ございませんでしょうか。

（異議なし）

それでは公開案件の終了後に非公開案件として再開いたします。

続きまして、日程第3　次回日程について、教育総務課から説明をお願いします。

第3　次回日程

○教育総務課長　　10月の定例会でございますが、10月29日、火曜日、時間は午前10時30分を予定しております。よろしくお願いいたします。

第4　公開終了

○教育長　　以上で、公開案件を終了します。これより定例会を非公開といたします。傍聴の方及び報道関係者の方はご退席をお願いいたします。

（傍聴者・報道関係者退出）

第5　定例会（非公開）　報告

第6　閉会

○教育長　　これで定例会を閉会します。

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員　　藤藤　昭彦

署名委員

乙川　千香